

丸亀で会いましょう

碧空(あおぞら)・・・空の色のように歳を重ねても元気に地域貢献!

「とにかくうどんを打つのが好きなんや。」碧空会の代表、神さんは、やさしい笑顔で語る。

「子どものころ、父母が教えてくれた手打ちのうどんを伝えたい。」老人ホームに出むいて手打ちうどんをふるまったり、小学生、中学生にうどんづくりを教えたりする碧空会の活動は、昭和62年にスタートした。

手打ちうどんは、生地の層が重なって手打ちならではのコシができるそうだ。うどんだけでなく、初夏は押しぬき寿司、秋はぼたもち作りを小学生に教える。竹細工、わらぼうし作りの指導も行う。丸亀の観光や交流、交通安全キャンペーンにも…活動の幅が広がっていく。話題の映画「UDON」では、道具を貸し出し、縁の下力持ちとして撮影に役を買っている。

小学生当時の遠足を懐かしく語ってくれた。飯野山登山に必要な行きと帰り2足のわらぼうしを自分で作ったという。のどかな光景が脳裏に浮かび、やさしい気持ちになれた。ふるさとを思う温かい心を込めた碧空会の活動が、うどんのコシのように地域に元気を与えている。

男女共同参画社会は、健康に歳を重ねていきいきと活躍できる社会です。碧空会のみなさんのように、いきがいを持って活動を続ける地域の達人から学ぶのは技だけではないようです。



神良昭さん



第15号

城辰幼稚園



平成18・19年度
男女共同参画モデル校



飯野小学校

Information

朗読劇

「ひまわり～DVをのりこえて」

声は力! 無名の尊厳ある女性たちの声をお届けします。
これはDV(ドメスティック・バイオレンス)の実話に基づく物語です。

と き ●平成18年11月25日(土) 10:00～

と ころ ●生涯学習センター 2階大広間

※参加無料、託児あり(要予約)

※託児申し込み 企画課男女共同参画室(Tel.24-8839)

●丸亀市男女共同参画講演会●

妻が僕を変えた日

～共につくりあげる社会を目指して～

講 師 ●広岡守穂さん 中央大学法学部教授
佐賀県立女性センター館長

(プロフィール)

家族、夫婦、親子の問題を独自の観点から優しく解説する大学教授。東京大学法学部卒業。中学の同級生と学生結婚し、5人の子どもの大切さを痛感。専攻は政治学だが、現代日本の社会現象に幅広い関心を持ち、最近男女共同参画、高齢者福祉に関心を持っている。「ここが違うよ日本の子育て」ほか著書多数。

と き ●平成19年1月24日(水) 13:30～

と ころ ●ひまわりセンター 4階研修会講室

主 催 ●丸亀市

※参加無料、託児あり(要予約)

※託児申し込み 市企画課男女共同参画室(Tel.24-8839)

ゆめオープン日

予定

「家族の一大事!その時私は…」

と き ●2月17日(土) 14:00～16:00

と ころ ●生涯学習センター(まなびらんど)5階 ゆめ

講 師 ●和泉とみ代さん

(香川短期大学 生活文化学科介護福祉専攻)

主 催 ●まちづくりグループまるみな

連絡先 岡本 Tel.090-3180-5104

6/17

さぬき笑顔ネットワーク
「キャンドルを作ろう」

手作りローソクのあたたかい
ほのおがきれいでした



編集後記

息子は中学の時、高校へ行く理由を見つけられず、悩んでいた。ある日、上機嫌で帰宅してにやにやしているかと思えば、「今日はっきりわかった。無理だと思ってあきらめていたけど、やっぱり歌が好きじゃ。好きなことが見つかるって、こんなに幸せなことなんじゃないなあ。」としみじみ言った。

彼は今、家の手伝いをしながらギターの練習をしている。本当に好きなことをしている子どもを見るのは、親としてとても幸せなことだ。願わくは、目の前のひとりを幸せにできるミュージシャンに… (A)

ワーク・ライフ・バランス

仕事と家庭を両立させて働く

ワーク・ライフ・バランスとは、自立した男女が家族としての責任を果たしながら仕事と家庭・地域生活の両立をする、ということです。

こんなマークを見かけたことはありませんか?



次世代認定マーク



“子育て・介護”応援企業
認定マーク

育児や介護など家庭での生活を大切にしながら働くことは大変です。

これは、働く女性だけでなく男性も仕事と家庭を両立して働ける職場環境づくりに、積極的に取り組む企業を国や県が認定するマークです。

今、企業は働く女性も男性も働きやすい環境整備に取り組み始めています。丸亀市でも、四国扶桑電機株式会社、四国化成工業株式会社、シコク・システム工房株式会社、サヌキ食品株式会社、岩崎タクシー有限公司が香川県の認定を受け、仕事と家庭のバランスのとれた多様な働き方を進めています。

少子化の日本、男性の育児参加が求められる中、男性の育児休業取得の実績がある、大倉工業株式会社を取材し、馬場史郎さん(常務取締役総務部長)と育休制度を利用した福井浩光さんの話を伺った。

社員からの声で、法律の枠を上回る時差出勤や短時間勤務を選べる制度が整い、その周知に支店・工場を回ったという馬場常務さんの言を借りると、「育児を応援する企業」の根底は「社員一人ひとりのセルフエスティーム、満足感や達成感を大切に」「社員の成長が企業の成長」という姿勢にあるのだろう。

「上の子とゆっくり遊べた」という福井さんは、「事前に段取りできる育休は仕事への影響も少なかった」「人生を考える時間がとれ、家族の有り難さに気付いた」という。

「時代は変わった」「女性の労働力も企業の力」と温厚に語る馬場常務さんの言葉から、仕事だけでなく、家庭や地域での生活も大切にできる企業は、きっと消費者にもやさしい企業だと感じた。

